

勢和小学校だより

発行日：令和7年3月25日 第30号



立派に卒業していった

先日行った卒業式では50人の子どもたちが堂々とした姿を見せていました。参列された保護者の皆様や在校生、職員が見守る中、卒業式が厳かな雰囲気が進んでいったのは、卒業生が普段見せる人なつっこさは控えて、凜とした姿で卒業証書を受け取り、また自分たちの思いを歌やメッセージに乗せて伝えきったからだと思います。在校生の堂々とした歌やメッセージ、座る姿や拍手する姿が凜としていたことも、厳かな雰囲気に花を添えることになり、全校児童みんなで創り上げた卒業式になりました。

卒業生には中学校での活躍を期待するとともに、在校生には、自分たちでよりよくしていこうとしてきた卒業生の姿を引き継ぎ、さらに勢和小学校をよりよい学校にしていけることを期待しています。

新しい学校教育目標

本校の教育目標「自ら楽しさを創り出す勢和の子
～やってみて、考えて、工夫する子どもの育成～」を、子どもたちとも共有し、一緒になって勢和小学校を創り上げるため、より分かりやすい目標に変えることにしました。

来年度最上級生となる5年生に、現在の教育目標を説明し、その中でも創り出す「楽しさ」について触れ、
○わかった、できた、上達したが実感できること

○ホッと安心できること、弱音が吐けること

○みんなと支え合い、課題を乗り越えること

○事故やけがなく健康で生活できること

が、求める「楽しさ」であることも説明しました。

その上で、「1年生にも分かりやすいこと」、「覚えやすいこと」を条件に話し合い、以下のような目標になりました。

「明日も行きたいと思う勢和小 ～楽しく笑って過ごせるように やって、考え、工夫しよう～」

失敗を恐れず、前述の「楽しさ」を求めて、やってみて、考えて、工夫することを繰り返していけば、「笑って楽しく」過ごせるようになり、その結果、明日も行きたいと思えるようになるという結論に至りました。

5年生が新しい目標について一人ひとりがそれは真剣に考え、討論した結果、素敵な目標になったと思います。

新5年生は2クラスに

新5年生に児童が1人転入することが判明し、義務標準法で規定されている1クラス35人を上限とする人数を超えることから、新5年生は来年度（令和7年度）、2クラス編成で学校運営していきます。



習熟度別授業を新3年、新6年で実施

本校ではこれまで子どもたちの学習内容の定着具合や理解度に応じて、クラスを2つに分けて授業を行う習熟度別授業を実施してきました。今年度は、習熟度別授業を実施する教員が配置されず該当学年のクラスを分けた授業はできませんでしたが、来年度（令和7年度）はそのための教員の配置が決まりましたので、学習内容の難しくなる新6年生と1クラスの人数が多い新3年生で習熟度別授業を算数科において実施します。

モジュール授業の実施

来年度（令和7年度）から、本校では1コマ45分の授業を10分ずつ振り分け、毎日朝の会に続けて10分間新出漢字などの学習に充てるモジュール授業を4年生以上の学年で実施します。

モジュール授業を実施することで、週あたり授業1コマ分が時間割から少なくなり、4年生以上の学年では6限の日が1日減ります。

具体的には、月曜日の時間割からモジュール授業分の1コマを減らし、5限にしていきます。

モジュール授業実施により、月曜日と水曜日は全校一斉下校となります。

詳細は、別紙「モジュール授業の実施について」

をご覧ください。

お世話になりました。

今年度末で転出する職員です。保護者の皆様には大変お世話になりました。

教 頭	寺谷 寿美
1 年 担 任	田中 里佳
3 年 担 任	百田 純子
ささゆり担任	小林 大悟
専 科	山崎 伊都子
専 科	伊藤 典子
初任者指導	小倉 啓孝
育 休	浅野 智子
学校事務職	山中 真帆
学校支援員	竹森 圭美
学校支援員	中島 美加
学校支援員	川島 颯太
学校支援員	松原 冬馬
学校支援員	勝谷 陸人
学校支援員	笠井 永都
学校支援員	川島 峻雅
学校支援員	井坂 安寿
学校支援員	大倉 すず
学校支援員	垣内 麻鈴

今年度1年 お世話になりました

安心・安全な学校を基盤とし、子どもたちの意見表明の機会を確保しながら、今年度教育活動を進めて参りました。来年度は新たな教育目標の下、さらに子どもたちにとってよりよい学校になっていけるよう職員一丸となって取り組みを進めます。保護者の皆様には、来年度も本校教育活動へのご理解、ご支援をお願いいたします。